

灯



建設業を本業とする友人の経営方針を聞く機会があった。本

業は日田市でもトップクラスとのことで順調な経営状況だが、営業努力もしっかり行っているようで、さすがと感じさせられることが多い。話

の中で本業が苦境に陥った際を想定し、社員を解雇しないよう異業種である有料老人ホー

2025年問題



草野 義輔

ムをつくり、配置転換を可能にして身分保障ができるようにした、とのことでなかなかの発想と感心させられた。

以前北海道でゴルフをした際の記憶だが、スタッフに「北海道では冬季半年ほどゴルフ場は閉鎖だがその間仕事は」と尋ねた。すると「うちの経営者は頭が良い。スキー場を持っている

ので冬はそちらで働く」との答え。なるほどこの点があったが、これは友人の配転可能な経営方針と重なる部分が多い、との印象だ。

しかし一つ気になったのは、建設業と比べて介護関係は給与水準が低く配転は簡単ではないことが後で分かったという点だ。団塊の世代が後期高齢者になる2025年問題は医療や介護の喫緊の課題となっている。超高齢社会で介護者は絶対的不足なのでが、なぜ給与水準が低いのか。せっかく国家資格を取ったのに待遇の不満から福祉の現場から離れる若者が多いとのこと。厚生労働省は水準改訂の動きをしているとはいいが、あまりにスピード感に欠けている。敬老の日を前に心配は尽きない。

(昭和学園高校理事長・日田市)